

まちの公園を活用して、
地域に開くことを志向する保育園の
取り組みと、使用している制度に
ついでの紹介

福吉 聡子

私たちが暮らすまちには道路、公園、広場、上下水道等のインフラ設備、公共施設など多様な都市施設が存在しますが、その一つである公園を積極的に活用し、地域に開かれた保育園を志向して活動を続ける保育園の取り組みと、その保育園が利用している福岡市の制度をご紹介します。

公園のような公共スペースは、利用ルールが決まっているがために、ある程度定型化された利用法しかできないものと思込んでいましたが、新しい可能性を少し感じさせてもらったことを共有したいと思います。

●公園に隣接する保育園

ご紹介するのは福岡市中央区薬院伊福町の「いふくまち保育園」と、すぐそばにある「ごしょがたに保育園」（以下、(い)保育園、(ご)保育園）です。薬院伊福町は、福岡市中心部の西鉄天神駅から約1.5km、福岡市地下鉄の薬院大通駅から約500mで、周りにはビルが立ち並んでいます。(い)保育園は、面積約500㎡の福岡市古小鳥（ふるこがらす）公園に隣接するテナントビルの1階にある、企業主導型保育園として開設された定員19名の保育園で、開設後5年ほど経過したところです。まず、(い)保育園が開設され、古小鳥公園での活動を通じ知り



古小鳥公園に隣接するいふくまち保育園

合ったご近所の大家さんに誘われ、数年後、徒歩1分ほど離れたビルの1階に(ご)保育園(定員30名)が開設されました。

運営するのは、どちらも酒井咲帆さん。彼女は、「子どもとともに過ごすことは、大人にも大きな学びをもたらし、子どものいる風景は多様な人どうしをつなぐ力になる」と考え続けてきました。保育園運営の基本を「保育園は暮らしの場『生きる力』を磨く」、「自然や芸術や食事など、本物に出会う」、「まちと一緒に育ち合う」の3つとし、考えに賛同する約30名の保育士、保育支援員、看護師、調理員などとともに、両保育園の運営にあたっています。

●拠点とする公園の積極的利用と地域交流

両保育園に通う子どもたちは、古小鳥公園を様々な活用しています。毎日、公園で外遊びの時間を過ごし、公園の草取りや花の植え替えを行います。その他、コロナ禍が続くなかで計画的に実施できなかったこともありましたが、豆まきなどの年中行事や夏のプール遊び、地域の高齢者が定期的に行うラジオ体操への参加、公園で行われたマルシェへの出店などです。

「みんなが居心地よく過ごせる公園であるための管理の一端を楽しみながら行い、その公園を利用してもらい、まちとともに成長する保育園でありたい。公園を利用できることで子どもたちの活動に広がり生まれ、その活動を通じて子どもの豊かさを地域にも提供し、つながりを育んでいきたい。」と酒井さんは語ります。

「保育園にも一歩足を踏み入れてもらいたい」とはいうものの、街なかの保育園に部外者が突



いふくまち保育園の様子（内部）



古小烏公園
を活用する
様子
(左から、
プール、
豆まき、
マルシェ)

然訪問することはあまり現実的ではありません。独自の園庭を持たないが故の活動でもあると思いますが、日常的に公園を拠点に活動することで、通りがかった人に声をかけられたり、地域の人たちとともに活動したりするなど、保育園の中と外を緩やかにつなぐことが可能になっています。

●公園から少しずつ広がるつながり

公園での活動を通じ、少しずつつながりの輪が広がっています。先述しましたが、公園でのラジオ体操などを通じ知り合った大家さんに声をかけられ、(い) 保育園から50mほど離れた場所にあるテナントビル1階の店舗が退居した後に、2件目の(ご) 保育園が開設されました。

また、昼間利用されていなかった近所の剣道場の空き時間を雨天遊び場として利用しています。その他、公園の管理活動を知って花の苗を寄付して下さる方もいるそうです。

これらは、単純に地域が善意でサポートしてくれるというだけではなく、空きテナントを利用しテナント料を支払い、施設の空き時間を利用することで利用料を支払い、また廃棄されるかもしれない花の苗を引き取って有効に活用したということでもあり、地域の小さな循環を生み出しています。

●利用の気遣い

拠点として古小烏公園を利用している両保育園ですが、学校の長期休みなど地域の子どもの利用が予想されるときには、周辺の複数の公園を利用しています。

また、最も気を配っているのは、「みんなの古小烏公園」であるので、独占しないのは当然ですが、後述するように、公園が心地よく過ごせる場所であるように管理したり、公園での活動について情報を発信したりすることです。

●公園の維持管理を担う愛護会

さて、公園を積極的に活用している両保育園ですが、酒井さんは、福岡市の「公園愛護会」の制度により「古小烏公園 愛護会」を設立し、草取り、花壇の手入れ、清掃などを子どもたち、保護者、職員、地域の人とともにを行っています。

公園愛護会は、都市公園の清掃・除草等の日常的な管理を自発的に行うボランティア団体として、福岡市が結成を呼びかけているもので、公園周辺の町内会、自治会、老人会、子ども会等を中心に結成されています。1公園1愛護会が原則で、中央区内には公園が大小取り混ぜておよそ130ありますが、現在のところ、愛護会はそのうちの約61%で結成されているそうです。基本的な活動は次の通りです。

公園愛護会 基本活動

- ・月1回以上の公園の除草・清掃
- ・月1回以上の遊具等の調査点検、点検結果の報告
- ・公園の利用者に対する、利用上の注意・指導

この活動には、面積に応じ報奨金が交付されています。

愛護会活動面積 (㎡)	年額 (円)
1,000 未満	28,000
1,000 以上～ 2,000 未満	30,000
2,000 以上～ 3,000 未満	32,000
3,000 以上～ 4,000 未満	34,000
4,000 以上～ 6,000 未満	36,000
6,000 以上～ 8,000 未満	38,000
8,000 以上～ 10,000 未満	40,000
10,000 以上	42,000

また基本活動に加え次のような選択活動の制度もあります。上記の報奨金に、活動に応じ加



古小鳥公園の花壇の様子

算されることになっています。

公園愛護会 選択活動

- ・公園の樹木管理（中低木の刈込）
- ・公園の除草管理（機械除草等）
- ・公園内の便所清掃

●公園利用のルール

福岡市の分類によれば、古小鳥公園は「0.1ヘクタール未満の、主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園」で都市公園のうちの「幼児公園」と分類されています。

公園の利用には福岡市公園条例等のルールが定められており、事前の許可申請が必要な行為や使用料が発生する行為もあります。利用にあたっては両保育園とも例外ではなく、行為許可申請書等の提出が必要です。

日常的に利用しているということで両保育園は当然ながら頻繁にこの行為許可申請書を提出しています。今のところ提出法は紙ベースに限定されているとのことなので、私見ながらなるべく早く電子化されるといいと願っています。

●「まちと一緒に育ち合う」

開設されてから数年目の若い保育園が、好意的に地域に迎え入れられているというもの、多少のクレームはゼロではありません。「まちと一緒に育ち合う」という方針通り、対話とともにその都度少しずつ成長していく心構えです。

●公園利用の方法の新しい展開を期待したい

酒井さんが利用している制度は、公園愛護会と行為許可申請の2つあります。特殊なものはありませんし、公園で遊ぶ、花壇の手入れを



みんなで公園の清掃

する等の利用・管理も珍しいものではありませんが、利用する公園がごく身近にあって延時間が大変長いこと、管理のプロセスや派生する地域との対話を楽しんでいることで、新たな利用者像となりつつある気がします。現在のところ、この取組みが一般的な姿とまでは言えないと思いますが、私の思い込みを軽く揺さぶり続け、新たな利用者像がさらに生まれることを期待しています。（福吉 聡子）

近 況

総 八女市のアンテナショップ「八女本舗」に焼酎「環」を出品

平成22年度から都市住民と地元の方たちと一緒に八女市上陽町の遊休農地を活用し、毎年、5月末～6月初旬に焼酎用の芋（コガネセンガン）苗を植え11月に収穫しています。「環」とは、その収穫した芋で、隣の黒木町にある後藤酒造場で製造してもらっている焼酎の名前です。

「環」は、売り上げの一部を基金として積み立て、毎年、八女市内でまちづくり活動や地域を元気にする活動などに貢献している団体に助成しています。このプロジェクトは、都市住民と地元有志で組織した「八女市上陽町芋焼酎プロジェクト実行委員会」で運営しています。

令和元年には上陽町にある小中一貫校「上陽北浜（ほくぜい）学園」のゴルフ部、令和2年には八女市で活躍している太鼓集団「童衆（わらべしゅう）」に助成しました。

太鼓集団「童衆」の方たちは、今では畑の草